

賛成

中長期的視点の財政運営と市民の声を大切に

一般会計予算は605億6,408万9千円となり、新庁舎建設事業費を除くと過去最大となった。物価高騰の続く中、ひとり親世帯や単身高齢者、非正規雇用の女性等社会的に弱い立場に置かれる市民生活を把握し、必要な支援を講じるよう求める。今後扶助費は増加し続ける見込みであり、学校施設の維持管理等の大型事業にも多額を要する。地方債借入れの際には個々の事業を精査し慎重に見極めていくとのことだが、近年の金利変動も大きく、進行管理と見える化が重要。単年度では収支均衡となった一方、長期的には令和12年度の基金残高は約56億円にまで減少すると推計され、市債未償還額はさらに増加すると考えられる。基金と地方債のバランスに考慮した財政運営を求める。

●1月に新庁舎供用が開始した。様々に機能強化した庁舎の特徴を最大限に生かした取組みと検証が重要。市民サービスの向上に資する実践と、働きやすい職場環境の整備を●**市民活動団体支援**では、提案型協働事業に手があがらなかったことが残念。意欲のある市民団体との協働

は市にとっても有益。事前相談等が全て平日日中であることなど申請の仕組みの課題の改善を●**医療的ケア児**増加に伴い、市立保育園での看護師配置の費用が増額。学童保育所でも新規計上。地域の一員として学び暮らしていけるよう、医療的ケア児コーディネーターを中心に今後も寄り添った対応を●**産後ケア**は、助産師が家庭へ訪問するアウトリーチ型支援開始と共に事前面談等の予約は電子申請が可能となる。引き続き利用者ニーズ把握と事業者との丁寧なやり取りを求める●**予防接種健康被害救済制度**において、調査委員会委員報酬と給付金の医療費・医療手当が新規計上。コロナワクチンは副反応の強いものであったと考える。申請の負担も大きいため丁寧な対応を●**空間放射線量測定を休止**することは非常に残念。数値が変わらなくても調査継続には意義がある。機器のメンテナンスと貸出しを継続する以上、やめてしまうことに疑問が残る●**ぶんバス**の200円への運賃値上げでは、運転士の処遇改善に充てる旨の市民への説明が不足し行政への不信感を与えてしまった。



松岡 まり

国分寺・生活者ネットワーク

(賛成 3 人)
小坂 まさ代 松岡 まり
高瀬 かおる

今後の説明の際には一層丁寧にするべき。また無料塾に通う中学生のいる家庭への早急な支援を求める●**国3・2・8号線の暫定開放**により「国分寺九小入口」交差点の信号機がなくなるなど、交通網に変化が起きている。安全性に配慮し広く注意喚起を●**特別支援教育**において、教員だけでなくクラスアシスタントやサポート教室支援員、インクルーシブ教育支援員等の会計年度任用職員ともしっかり連携し、子どもを中心に置いた「チーム学校」での支援体制づくりを進めることを求める。不登校児童・生徒をこれ以上増加させないためにも、困りごとを抱えて通う子どもたちのサポートを●**中学校給食**について、在り方を検討する委員会が市民参加できる形で開催される。給食を食べる当事者である中学生の率直な声を聴くことが重要。柔軟な姿勢で進めるべき●**市民**にとって重要な新規事業も多く始められるため、賛成とする。

賛成

時代の変化に適応し持続可能な市政運営を

令和7年度一般会計予算は605億6,408万9千円と新庁舎建設工事費の皆減を除くと過去最大規模となった。財政調整基金を取り崩すことのない収支均衡型予算であり、また将来に課題を先送りせずに市民生活を守るための様々な施策が推進されることを評価。市税収入では、個人市民税の個人所得や納税義務者の増加などで、前年度より10億円以上の増額が見込まれている。しかし、ふるさと納税の当市における税収流出額は年々増加。令和7年度は約10億5千万円の流出が見込まれており、令和12年度は約15億5千万円まで増加する推計で、これまで以上に危機感を持った対応が必要である。財政力指数の3年平均が1を超える努力をしているにもかかわらず、不交付団体がゆえに、ふるさと納税による減収への国からの補填がない本市の厳しい状況が市民に伝わり、ご理解とご協力を頂けるような広報の取組を求める。年々上昇傾向の経常収支比率は人件費や特に扶助費の増加によるもので、注視する必要がある、抑制の取組を求める。今後、旧庁舎用地利活用や（仮称）リサ

イクルセンター建設事業などの大きな事業も控えており、金利の上昇や地方債の借入の動向をしっかりと見ながら、変化の激しい時代に対応できる持続可能な財政運営に取り組んでいただくことを求める。歳出では、胃がん検診検査内容拡充のための経費、未就園児の定期的な預かり事業や定期利用保育事業に要する経費等、市民生活が安全・安心なものとなり、子育て支援を推進し、持続可能なまちづくりのために必要な経費であると評価。少子高齢化、人口減少を見据えて緊張感を持った取組を求める。令和7年度の予算は、『**第2次国分寺市総合ビジョン**』で掲げる未来の実現を目指す上で、大事なスタートの年度となる。『**施政方針**』では、五つの「分野別の都市像」ごとに基本姿勢と中心事業が示された。『**子どもを育み学びがつながるまち**』では、こども家庭センターの開設で、児童福祉分野と母子保健分野を集約し、一体的な支援を行うことで、様々な専門職への相談、連携による幅広いサポート体制となることを評価。『**活気あふれる成長のまち**』では、タツノコプロ×



はぎの 英輔

公明党

(賛成 3 人)
久保 けいこ はぎの 英輔
木島 たかし

国分寺市～アニメの魅力で地域活性化～において、様々なイベント展開が期待できる。地域のにぎわい創出に向けて強力に推進していただくことを求める。『**自分らしくいきいき暮らせるまち**』では、健康ポイントアプリの導入により市民の健康意識の向上や健康行動の習慣化の促進に繋がることから評価。『**安全・安心で快適なまち**』では、住まいの防犯用品購入費補助事業の実施により、「闇バイト」による住宅強盗事件が全国的に発生している中で、安全・安心な暮らしの実現に資するものと評価。『**未来につながる持続可能なまち**』では、公共施設への電力調達に競り下げ方式のリバースオークションを活用し、価格抑制した再エネ電力の導入は、2050年までの「ゼロカーボンシティ」実現を、大きく推進させる取組みであることを評価。以上、これまでの市の課題を改善、前進させるための予算であると評価し賛成とする。

賛成

大枠は賛成。しかし早急な改善も必須。

地方交付税交付金が不交付な点や、ふるさと納税による流出拡大など**厳しい状況で健全な収支均衡型の予算を維持できた部分は評価できる**。だが今後を考慮すると**96.6%と非常に高い経常収支比率の改善は急務**。個別の予算を見ても、

策定根拠に一定の妥当性があった。しかし一部は根拠のデータが不足し合理性を欠いていたのも事実。結論部分には賛成したものの、本件に関しては**職務遂行上のマインドセット改善が必須**。子育て支援の拡充も評価でき、総論として



寺嶋 たけし

無会派 (日本維新の会)

(賛成 1 人)
寺嶋 たけし

は賛成の立場をとるが、明確化した改善すべき点は早急に対応することを強く要望する。

反対

物価高対策の具体化とぶんバス値上げ中止を

反対の理由は物価高対策の具体化がないことと**ぶんバス運賃の値上げが強行されたこと**。昨年末、国から1.7億円の臨時交付金があったのに、**新たな物価高対策の具体化がない**。物価高の中で、市民の暮らしと営業を守り支える自

治体としての姿勢が欠けている。早急に支援策の具体化を求める。**ぶんバス運賃の増収分をバス運転手の処遇改善のために事業者に再分配する**というが、その原資をどこに求めるのか。**新たな負担増を市民に**



中山 ごう

無会派 (日本共産党 国分寺市議団)

(反対 1 人)
中山 ごう

求める時ではない。また、市報で周知してから1週間で決定。こんな市民不在の決め方はない。

賛成

将来世代に責任を持つ行財政運営を！

基金残高は7年度→12年度で95億円から56億円に減少する見通しであると同時に市債残高が3年前の268億円から361億円と増加しており、将来を見据えた一層の財政規律が必要だ。一方で福祉予算の扶助費は10年で106億円→186億円と

増加し、ふるさと納税の流出も10億円を超え、一層の改革が必要である。市役所移転に伴い、中・北部地域の市民に不便が及ばないように恋ヶ窪市民サービスセンター開設は評価する。代表質問でも触れたLED化はスピードアップを。新



木村 徳

無会派

(賛成 1 人)
木村 徳

庁舎で通年業務を行う最初の年度でもあり、業務の効率化を検証することを求め賛成する。